

10月18日（日）礼拝メッセージ「豊かな実を結ぶ」

（マタイ 13：3、10、11）イエスは多くのことを、彼らにたとえで話して聞かされた。「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。…」すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに言った。「なぜ、彼らにたとえでお話しになったのですか。」イエスは答えて言われた。「あなたがたには、天の御国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていません。」

（マタイ 13：15～16）「この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、目はつぶっているからである。それは、彼らがその目で見、その耳で聞き、その心で悟って立ち返り、わたしに癒されることのないためである。」しかし、あなたがたの目は見えているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。

（マタイ 13：18～23） 朗読

① 道端

（マタイ 13：19） 御国のことばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。

（使徒の働き 17：10～12） 兄弟たちは、すぐさま、夜のうちにパウロとシラスをベレヤへ送り出した。ふたりはそこに着くと、ユダヤ人の会堂には行って行った。ここのユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりにかとうかと毎日聖書を調べた。そのため、彼らのうちの多くの者が信仰にはいった。

② 岩地

（マタイ 13：20～21） また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。しかし、自分のうちに根がないため、し

ばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。

（詩篇 105:19） 彼の夢が実現するときまで、主のことばはヨセフを試した。

（詩篇 1：2～3） まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。

③ いばら

（マタイ 13：22） また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。

（黙示録 12：10、11） 私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに敵に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。

④ 良い心の土壌100倍60倍30倍

（マタイ 13：23） ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。

（黙示録 22：1～2） 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と小羊との御座から出て、都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。